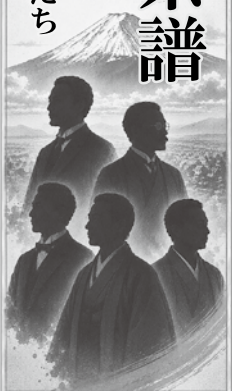


甲斐の系譜

新時代を拓いた
郷土の先人たち



山梨県は日本の近代化に大きく貢献した偉人を数多く輩出している。自主性、公共性、開拓精神という甲州人の気風に基づいた先人たちの挑戦と功績を紹介する。

甲州財閥
小林 一三
(1873-1957)



田村茂撮影「現代日本の百人」
文芸春秋新社 国立国会図書館デジタルコレクション

阪急・東宝グループの創業者として、日本の都市文化に影響を与えた小林一三は明治6(1873)年、巨摩郡河原部村(現韮崎市本町)の商家に生まれた。間もなくして母親が他界。婿養

美平八郎によって創始された南八代村(現笛吹市)の私塾「成器舎」に住み込みで学んだ。

沿線に暮らした先見性

交通、商業、文化を一体化

や観劇に明け暮れ、執筆した小説が地元紙に連載さ

宝塚歌劇団創立40周年記念公演で団員に囲まれる一三(右中央、阪急文化財団蔵)



阪急電鉄社長に就任

成器舎で慶応義塾(現慶応大)の存在を知った一三は明治21(1888)年に上京して入学。在学中は文学

れたこともあった。新聞社への入社を希望したがかなわず、三井銀行現三井住友銀行)に入社した。

30代半ばで退

宝塚歌劇団を創設

一三が重視したのは、単に乗客を増やすための工夫ではなく、人々の生活圏の設計だった。沿線の住宅開発や行楽地、日本最初のタ

私費で演伎館買い取る

一三は県内の文化振興にも足跡を残した。昭和11(1936)年、経営難に陥っていた甲府・太田町の芝居小屋「演伎館」を買取り、「甲府宝塚劇場」として開館した。赤字が見込まれる演伎

偉人の言葉

事業は大衆を相手にした
事業でなくては成功しない



宝塚歌劇団の劇作家・堀正旗に宛てた一三直筆の書簡。原稿のお礼が書かれている昭和6年、韮崎市教委蔵



昭和11年、一三が買収した「演伎館」。その後、甲府宝塚劇場として開館した山梨新報 昭和11年7月21日掲載

館の買収については当初、東宝の重役らが反対したが、一三が故郷の文化発展のため自ら私財を出したことで話がまとまった。
甲府宝塚劇場の建物は昭和20(1945)年の甲府空襲で焼失したが翌年、中央1丁目に移転し再建した。昭和31(1956)年には映画館「甲府シネマ」を増設。平成9(1997)年、同劇場と統合して「甲宝シネマ」となった。その後、運営会社が交代するも、同名で平成25(2013)年まで営業。地域に根差した文化拠点として、77年間にわたり、本県の大衆文化を支えた。